

論文審査の結果の要旨

氏名：倉 持 卓 司

博士の専攻分野の名称：博士（芸術学）

論文題名：創成期の米国自動車産業におけるカースタイリングの成立過程

審査委員：（主査） 教授 肥 田 不二夫

（副査） 教授 桑 原 淳 司

武蔵野美術大学教授 小 林 昭 世

筑波大学教授 山 中 敏 正

自動車の外観デザインは機能から導かれた合理的な形態だけでなく、格好良さや新しさなど情緒的な魅力を表現する必要性が高いことが他の多くのプロダクトと異なる特徴となっており、一般的に「カースタイリング」（以下CS）と呼称されている。本論文は数多くあるプロダクトの中で何故、自動車がデザインとしてスタイリングを重視して来たのか、そのスタイリングがどのように形成されていったのか、自動車誕生からその進化の過程を踏まえた上で自動車産業が形成されていった20世紀初頭の米国に焦点をあて、CSの導入から成立に至る経緯を明らかにし、現代に続く自動車デザインとの関連を明確にすることを目的としている。自動車はその用途に応じ様々な車種があるが、論者はその対象を特殊な車両を除き多数の購買者が受け入れた量販車とし、CSの概念的定義を「自動車メーカーから購買者への自動車の情緒的魅力をアピールするための専門組織による形態表現活動」とすることで造形から表現活動までを研究対象としている。また歴史的な調査・分析に於いてはその客観的評価の根拠として当時の自動車広告に着目し、その商品の特徴や購買者への訴求表現を通して自動車の「スタイリング」に関する表現を探ることで当時の変化について検分可能と判断し、自動車広告における図版及び言語表現に着目した分析方法を試みている。具体的には1920年代に広告の博覧会と称された週刊誌『ザ・サタディ・イブニング・ポスト（*The Saturday Evening Post*）』（以下SEP誌）に掲載された自動車広告記事を中心に、そこで得られた情報と既往文献の断片的、表層的な情報を相互補完することによりCSの成立過程を明らかにしている。

以下に論文内容から1～2章、3～5章、6～9章、10章～終章の四区分にまとめその要約と評価を記述する。

第1章では、本研究の意義について言及し、CSの定義を行うとともに自動車全般の形態の変化とCSの成立を関連付けた先行研究が少ないことを記した上で研究の目的と方法を明確にし、第2章では、本論文の基本となる時代背景について20世紀初頭の米国における社会、経済、文化といった当時の一般的な世相の把握を行い、更に米国のデザイン活動に影響を与えたと考えられる欧州のデザイン動向と米国との関係に考察を広げている。その結果、20世紀に入り米国の産業は自動車を中心に大きく発展したと同時に、デザインにおいては欧州の機能主義的デザイン運動は直接的な影響は小さく、フランスを発端としたファッションデザインとアール・デコ様式が強い影響を与えたことを多角的視点から論じていることは高く評価できる。また当時のSEP誌の広告から「デザイン」と「スタイル」の言語感覚が今日と異なることを見出し、後段の「ファッション」と「スタイル」に関する論考に繋がっているところは本論文独自の視点である。

第3章では、20世紀初頭の米国自動車産業の形成と自動車の形態変化を考察し、自動車は1920年代の好景気とともに発展し、オープン型からクローズド型へ大きく変化すると同時に現在に続く乗用車の基本形態として確立したことを多くの図版や表を基に明示していることは評価に値する。第4章では、広告産業の概況からSEP誌の位置付けを明確にした上で、その広告文章表現から「スタイル」に関する「情緒的な言語」と「具体的な形態説明」の2種類の記述を抽出し、第5章では、1900年代から1930年代まで広範囲な調査を行い、併せて家庭用機器の広告調査もを行い自動車の広告の特徴を分析している。その結果、20年代中盤以降「スタイル」の訴求が増加することと併せて、どの時代に於いても自動車は他のプロダクトと比較し一歩先を行った商品訴求がされており、20年代中盤以降「スタイル」にウェイトを置いた商品として定着したとの論述は史実に照らし合わせたもので客観的で実に説得力がある。また、この3章から5章については多くの時間を費やし、当時のSEP誌約1400冊から約1800種、延べ約5900枚の画像を撮影し、綿密に調査し明らかにしたことは非常に意義あることである。

第6章では、「スタイル」に関するSEP誌上の言語表現群をデータ化し、その時系列の変化から1920年代にクローズド型が自動車の主流となるにつれ「スタイル」の重要度が高まったことを統計学的手法により明らかにしている。また、その「スタイル」の目指した方向が「低く長いボディラインによるスラリとした容姿」にあるとし、その実現のためにCSが導入されたとの仮説を導いている。この仮

説設定には論者のデザイナーとしての先入観が含まれている感があるものの、第7章では、その仮説検証として「スタイル」の変化に関係したと思われる特徴的な広告と、先行研究の断片的な情報の相互補完を行いCSの成立は大衆車と中高級車という2つの車格帯で並行的に進行したことを解き明かしている。この論述は既往文献等には無い新たな見解である。第8章では、シボレーとフォードの「スタイリング」の取り組みについて、言語表現だけでは不明確な部分を具体的に把握するため、自らカタログ及び当時の自動車の実測を通し正確に提示した上で車両のライン図を作成している。それを検証作業の補完として使用したことにより、その変化を比較検討できるようにしている。結果として、大衆車に於けるCSの導入は、1923年のシボレー・シリーズBから既に行われていたと考えられ、1925年以降のシボレー車やフォードのA型を「スタイリング」の起源と想定した先行研究はスタイリング導入の結果に過ぎず、スタイリングの組織的導入の過程を正確に論じていないことを明らかにしたことは高く評価できる。更に第9章では、GMのラ・サールとアート・アンド・カラースタジオ（以下ACS）の設立を起点に中高級車におけるCSの導入についても詳細の検証を行いラ・サール車誕生（1927発売）の4年以前のウィルス6のCSがその源流にあったことを立証している。これによりこれまで自動車の「スタイリング」の始まりをラ・サールとACSの設立とする歴史認識は、「スタイリング」を独自の価値とする設計が認められた結果であることからCS導入の起源はさらに古いことを明らかにしており、8章同様、重要な史実の発見であり新たな知見と言える。

第10章では、8章、9章で検証した2つの車格帯の動向を、CS発展の経緯として統合すると共に、CSの成立に関与した影響因子が、1920年代の初頭、中期、末期にかけて、それぞれ段階的な動きを呈していたことを史実に基づき論述している。第11章では、その影響因子をCSの成立過程の導入期、発展期、成立期と3つの段階に分類し、この3期にこれまで分かったすべての情報を整理し、CS成立の過程図としてまとめあげている。同図はこの時代の変化が文字と自動車のライン図によって視覚的に分かり易く認識出来るものとして評価できるものである。更にCS成立の本質と必然性について、「スタイリング」が「スタイル・ブランドへの着目期」「高級化の時期」「個性化の時期」と変化したことを論述し、米国の主な企業が新たな「スタイル」を模索し始めた「個性化の時期」にCSが成立し、自動車の「スタイル」が流線型スタイルへ連続したということを実証に基づき明らかにしている。次に第2章での「デザイン」と「スタイル」の言語感覚の違いを踏まえた上で、CSの成立とファッション産業の関係から1920年代の始めにボディエンジニアによる「デザイン（設計）」の一環として導入を始めたCSが20年代の後半にはスタイリスト達が自動車メーカーに登用されるとともに、CSが装飾的表現領域に変容したことを論じ、CS成立の必然性を「スタイル」を求め始めた購買者の意識変化を敏感に感じ取った指導者達による商品力強化のための商業的施策とし、購買者の情緒的感覚に訴えるために「スタイリング」が意図的に自動車の開発プロセスに組み込まれたことが理由であると結論づけている。そして終章では、今回の結論が現代に続くCSの成立過程であったことを論じた上で、これからも自動車に対する自己表現を望む限りCSは存在し続けるであろうと結んでいる。これらの流れから論者の考察力と理論立ての力量を高く評価する。また付録1の図表及び付録2の自動車ライン図は労作であり今後の同種研究に資するものとして評価したい。

プロダクトデザインに於いて自動車デザイン＝ファッションという漠然とした見方があったが、その明確な理由を記したものは無く、またCSと言う概念についても近代デザインの視点からのみ論じられるとともに断片的でもあった。本論文はそのような漠然とした認識と不明な点を既往文献と雑誌広告媒体の図版及び言語表現から調査・分析し、併せて当時の自動車ライン図を作成して形態比較検証するという糸を紡ぎ上げていくような地道な研究プロセスを通して明らかにしている。その研究手法およびステップは非常に意義深いものであり高く評価できる。また論者の論文全体の構成力、調査力、考察力、分析力の高さが伺える。時代の世相を表す週刊誌を史的資料とし、その時代の言語表現や言語感覚を探り、新たな事実を見出し当時の産業・経済発展の動向と照らし合わせて詳らかに論述し、新たな知見を示している本論文は今後の歴史系研究・論文に新たな視座を与えるものである。

よって本論文は、博士（芸術学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以上

平成31年1月28日